

教科	地理歴史	科目（単位数）	日本史A（2）	学年	2	類型	文理共通
学習目標	①国際政治の展開と関連づけた日本近現代史の基礎的知識の習得。②国際社会において主体的に平和を希求する日本人としての意識の涵養。③巨視的・微視的視座を往還しつつ思考する力や、それを基盤とする柔軟な思考力の涵養。						
期間	単元（学習内容）	学習の到達目標				自己評価	
年度初～ 1学期 中間考査	①開国～幕末期、明治維新 ②近代国家の形成	①②幕末・維新期の混乱と幕府・明治政府の諸施策について、微視的に理解しつつ、明治政府の諸施策に通底する目標とは何か、考察する。 ②明治憲法の制定過程及びその内容に係る学習を通じ、明治憲法体制が「無責任体制」と呼ばれる所以を理解する。（その理解が、敗戦に至る過程の理解に寄与する。）				取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
1学期中間～ 期末考査						取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
1学期期末～ 2学期 中間考査	③国際関係の推移と近代産業の発展	③条約改正交渉の展開及び20世紀初頭の政治史・外交史の学習を通じ、政治史・外交史が密接に関連することを理解する。また、明治期における産業発展の光と影について学び、当時の社会の諸相について考察する。				取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
2学期中間～ 期末考査	④第一次世界大戦と日本 ⑤第二次世界大戦と日本	④第一次世界大戦及び戦後体制への日本の関わりを通じ、日本の国際的地位が急上昇する過程を理解する。大正～昭和期において頂点に達した政治の民主化の過程を理解する。市民文化の諸相を学ぶ。 ⑤経済危機（恐慌の連続）、外交危機（国際的孤立の深化）、政治危機（政党政治の危機と暴力装置（実力組織）の政治関与強化）が複合し、非常時に至った過程を理解する。また、多様性を排除する社会がいかに人類にとって危険・不幸なものかを体感する。				取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
2学期期末～ 3学期 学年末考査	⑤第二次世界大戦と日本 ⑥日本の再出発	⑥ファシズムの軛から解放された国内の諸相と、占領軍の思惑や国際情勢に翻弄された戦後政治史の一端を理解し、さらに社会の諸相について学ぶ。				取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
3学期 学年末考査～ 年度末	⑥日本の再出発 ⑦独立後の政治と経済の発展	⑦55年体制の確立と、池田内閣によって安定化した保守政権下の政治状況を概観し、高度経済成長期の実態と国民生活に及ぼした影響について学ぶ。				取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
使用教材 （教科書・副教材）	教科書『高等学校 改訂版 日本史A 人・くらし・未来』（第一学習社） 副教材『最新日本史図表 二訂版』（第一学習社）、『改訂版 日本史Aノート』（第一学習社）、『改訂版 4ステージ演習ノート』（数研出版）、『日本史用語集』（山川出版社）						
学習方法	①【最重要】毎回、指定箇所を予習した上で授業に臨む。授業は、予習を前提として行われる。 ②教科書を音読する。音読は、自己の現状を認識する重要な手法である。 ③授業（や家庭学習）で、各歴史用語間にどのような関係があるのか（または、関係がないのか）把握する。						
評価方法	①定期考査（80％） ②平常成績（20％） 課題／実力考査、提出物等の実績等は②の算出に利用される。また、授業者・出題者の内容の誤りを指摘できた場合は、②にさらに加点する。						